



日本の国土は、亜寒帯から亜熱帯にまたがる大小の島々からなり、そこには屈曲に富んだ海岸線と起伏の多い山岳など変化に富んだ地形や各地の気候風土に育まれた多様な動植物相が見られます。

「モニタリングサイト 1000」では、このような日本列島の多様な生態系を、高山帯、森林・草原、里地、湖沼、湿原沿岸・浅海域、小島嶼に分け、あわせて 1000 か所程度のモニタリングサイトを設置しており、2003 年度より調査を実施しています。基礎的な環境情報の収集を長期にわたって継続することで、日本の自然環境の質的・量的な劣化を早期に把握し、得られた成果を保全施策や学術研究に活用することを目的としています。

森林・草原のモニタリングでは、樹木を長期的な環境変化の指標として、地表徘徊性昆虫を短期的な環境変化の指標として、鳥類を広域的な環境変化の指標として取り上げ、20 のコアサイト、28 の準コアサイト、約 420 の一般サイトで調査を行なっています。

- ・コアサイト： 毎年調査を行ない、毎木調査、落葉落枝・落下種子調査、地表徘徊性甲虫調査、鳥類調査を実施
- ・準コアサイト： 5 年に一度(一部は毎年)調査を行ない、毎木調査、鳥類調査を実施
- ・一般サイト： 5 年に一度調査を行ない、鳥類調査を実施

鳥類調査では、各サイトに 5 か所の定点を設置し、繁殖期と越冬期にそれぞれ 2 日間かけて 4 回(1 地点 1 回あたり 10 分間)、周囲に生息している鳥類の個体数調査を実施しています。

「陸生鳥類調査情報」は、結果の速報や関連情報をお知らせするために、2009 年より毎年 2 回発行しています。バックナンバーは以下よりご覧いただくことが出来ます。

<http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/index.html>

# モニタリングサイト1000

## 陸生鳥類調査 情報

*Emberiza variabilis*  
Photo by Masao Mitsui



2018年 9月号 Vol. 10 No. 1

### 結果速報

#### モニタリングサイト1000 2017年度越冬期 一般サイト結果速報 森本 元（日本野鳥の会）

全国約1,000か所のモニタリングサイトのうち、森林・草原の一般サイトは約420か所を占める重要な分野です。調査には、多くの市民調査員のみなさまにご協力いただいております。森林・草原の一般サイトでは、概ね5年に1度、陸生鳥類調査（繁殖期および越冬期）および植生概況調査（繁殖期のみに実施）を行っています。2017年度の越冬期は、調査を73サイト（森林62サイト・草原11サイト）にお願いしました。そのうち、依頼した中から調査を実施できなかったサイトなどを除き、現時点でデータが集まり集計が完了している森林46サイト、草原9サイトの計55サイトのデータをもちいて、中間報告いたします。

#### 記録された鳥類

合計103種（森林94種・草原57種）の鳥類が確認されました。これは昨年の126種よりも2割近く減少していました。しかし、草原サイトは年変動が大きいので、森林サイトのみで比較してみると、昨年は94種で同数でした。では、なぜ総種数がこんなに減っているのでしょうか。これについては、後半で詳しく考えてみたいと思います。

モニタリングサイト1000調査では、5年で1セット（期）であるため、毎年調査地点が入れ替わり異なる地点が調査されています。同じ地点が調査されるのは基本的に次期の5年後です（ただし、一部のサイトは、調査状況などの関係で前後することがあります）。このような背景のもとで、モニタリングサイト1000の結果がどうであったかを振り返ると、確認される種数は、毎年同程度の種数が確認され続けており、複数年にわたり長く安定した傾向にあると判断されます。つまり、今年の森林サイトの結果は、平年並であったといえるでしょう。自然環境は少しずつ変化しますので、そこに生息する鳥類も変化していきます。自分のフィールドだけを見ていると、増えた種がいたり減った種がいたりしても、他所に行く傾向が違っているものです。「今年は〇〇が多いね」という声を聞く一方で、「少ないね」という真逆の話を耳にするなど情報に一貫性がないことも少なくありません。たくさんのサイトの結果をまとめることができれば、本当の傾向が見えます。広く全国の多地点を同時に把握し、平年の状態を確認している、モニタリングサイト1000ならばそ

れが可能で、本事業の長所といえましょう。そして、ある種の減少などといった大きな変化が起きた際には、それを確認する為の基盤となります。これには、皆さんの力を合わせた、日頃の地道なモニタリングの積み重ねが重要なのです。

#### 出現率と優占度

次に、森林および草原における出現率、優占度の上位種を表1・2に示しました（出現率：ある種の出現サイト数÷調査サイト数×100、優占度：サイトでのある種の個体数÷総個体数×100を平均したもの）。

出現率を見てみましょう。比較対象として、第2期5年間全体（2008-2012年度）の上位10種を記しますと、順にヒヨドリ、ハシブトガラス、コゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、ウグイス、カケス、シロハラでした。年により順位に多少の変動や、これらの内の下位種がトップ10圏外になったり、圏外の種がトップ10に入ってくる年もありますが、

表 1. 2017年度越冬期の出現率の上位10種

| a) 森林 (n = 46) |         |       | b) 草原 (n = 9) |         |       |
|----------------|---------|-------|---------------|---------|-------|
| 順位             | 種名      | 出現率   | 順位            | 種名      | 出現率   |
| 1              | ヒヨドリ    | 100.0 | 1             | ハシブトガラス | 100.0 |
| 2              | シジュウカラ  | 87.0  | 2             | ツグミ     | 88.9  |
| 3              | コゲラ     | 82.6  | 2             | ハシボソガラス | 88.9  |
| 4              | ハシブトガラス | 80.4  | 4             | トビ      | 77.8  |
| 5              | ヤマガラ    | 76.1  | 5             | シジュウカラ  | 66.7  |
| 6              | カケス     | 60.1  | 6             | ノスリ     | 55.6  |
| 6              | エナガ     | 54.4  | 6             | ヒヨドリ    | 55.6  |
| 8              | メジロ     | 54.4  | 8             | アカゲラ    | 44.4  |
| 8              | ハシボソガラス | 52.2  | 8             | オジロワシ   | 44.4  |
| 10             | キジバト    | 50.0  | 8             | コゲラ     | 44.4  |
|                |         |       | 8             | ゴジュウカラ  | 44.4  |
|                |         |       | 8             | ハシブトガラ  | 44.4  |

表 2. 2017年度越冬期の優占度の上位10種

| a) 森林 (n = 46) |         |      | b) 草原 (n = 9) |         |      |
|----------------|---------|------|---------------|---------|------|
| 順位             | 種名      | 優占度  | 順位            | 種名      | 優占度  |
| 1              | ヒヨドリ    | 12.2 | 1             | ハシブトガラス | 17.1 |
| 2              | ハシブトガラス | 8.0  | 2             | ハシボソガラス | 13.0 |
| 3              | シジュウカラ  | 6.7  | 3             | ベニヒワ    | 10.3 |
| 4              | エナガ     | 6.5  | 4             | シジュウカラ  | 7.3  |
| 5              | マヒワ     | 6.0  | 5             | ヒヨドリ    | 7.2  |
| 6              | ヤマガラ    | 5.8  | 6             | トビ      | 5.2  |
| 7              | メジロ     | 5.5  | 7             | ムクドリ    | 5.2  |
| 8              | ツグミ     | 4.2  | 8             | ツグミ     | 4.6  |
| 9              | コゲラ     | 3.2  | 9             | アカゲラ    | 3.0  |
| 10             | カケス     | 3.2  | 10            | コゲラ     | 2.4  |

上位の種構成はほぼ同じ種で推移しています。これらの順位や出現率は毎年似たような値となっており、非常に安定していることがこれまでの結果からわかっています。越冬期の1位は長年にわたってヒヨドリかハシブトガラスであり、これら2種が不動のトップ2でしたが、一昨年はコゲラが1位になるという大きな変化が起きました。このコゲラについてはその後の動向に着目していましたが、今年は3位と過年度における定位置の順位に落ち着いています。ここから考えると、コゲラが1位となったのは、一昨年だけの偶発的な結果であったといえそうです。

ハシブトガラスは少し順位を下げて4位となっていますが、出現率の値自体は過年度と大差はありません。これら3種に加えて、シジュウカラもトップ集団の常連です。また、メジロ、エナガ、ヤマガラなども、安定して毎年のトップ10に入っており、その順位はほぼ同じような位置で上下しています。ただし、順位の高い種ほど、順位の年変動が小さく、カラス類のような身体が大きな鳥は、年変動が大きい傾向にあります。総合すると、今年はいずれの種もある程度の年変化の範囲にとどまっており、横ばいといえそうです。特に、最上位種のヒヨドリ、シジュウカラ、コゲラ、ハシブトガラスの出現率は、とても高い位置をキープしており(約80%以上)、増減があるようには見えません。こうした種は、全国で変わらず安定した生息状況が続いているといえそうです。

## 調査サイト数と草原サイトの関係は？

今回は、調査サイト数と確認種数の関係に着目してみます。確認種数は調査サイト数によって増減し、両者の関係については、このニュースレター過去号にて詳しく触れています。今回はこの話題を、2017年度の草原サイトの結果とからめて、より深く考えてみたいと思います。

日本列島は南から北に長く、また環境によって生息する種が違います。この中にサイトを設置していくと、それぞれのサイトで異なる種が観察されます。サイトが増えると確認される種数は増えていきますが、この傾向は徐々に頭打ちになります。森林サイトは、繁殖期には、毎年60サイト前後・越冬期には50サイト前後調査を行っています。これだけの地点数を調査できれば、図1の右端のような、頭打ちの状態になっているといえるでしょう。

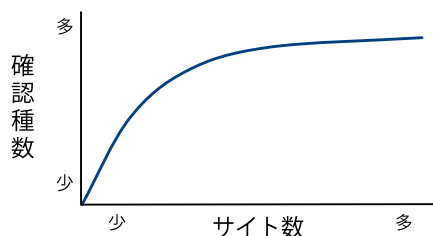


図1. サイト数と確認種数との関係のイメージ図。サイト数とともに記録種数は増加するが、ある程度で頭打ちになる

他方、草原サイトはどうでしょうか。草原サイトの調査数は毎年10か所程度です。森林サイトと比べると、数分の一にすぎません。この状況では、種数とサイト数の関係はどのような状態なのでしょう。そこで、第2期における草原サイト数と確認種数の関係をまとめてみました(図2)。これを見ると、サイト数が少し増えるだけで、確認種数が劇的に増え

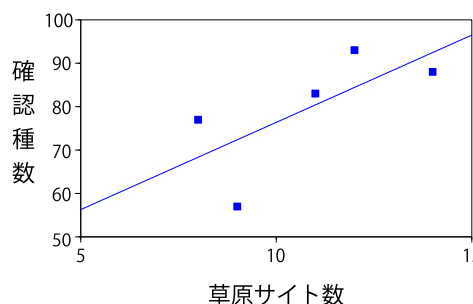


図2 草原のサイト数と確認種数の関係

ていることがわかります。つまり図1における左半分の状態です。実際、今冬は9サイトで57種が記録されていますが、昨年は14サイトで88種とサイト数の増加に伴い、31種も多くの鳥が記録されています。

サイト数の少なかった年には今年度(9サイト57種)と2013年度(8サイト77種)があります。今年度が少なかったのか、それとも2013年度が多かったのかは判断できません。ただし、その内容を見てみると、今年度は調査地の大半が北海道で、2013年度は南方の県が複数含まれるという構成でした。越冬期は南のほうが種数が多いですから、こうした地域の偏りが出現種数の大小に影響したのでしょう。サイト数が増えれば、こうした影響は軽減されていきます。

## 調査へのご協力ありがとうございました

今回の結果から、モニタリングサイト1000が推進する長期調査を継続することの有用性と、その調査内容への理解を深めていただけたものと思います。毎年の調査結果の積み重ねが、各種が増加しているのか減少しているかどうかの判断を可能にします。その判断の為には、調査デザインの背景を理解することが必要です。そして、こうした全国規模の調査を長期に渡って継続できるのは、多くの方々のお力添えの結果です。日本の自然環境のモニタリングの実施には、大勢の人々のご協力による調査継続が欠かせません。引き続き、皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。

2017年度越冬期の一般サイト調査には、65名の皆様のご協力をいただきました。最後にお名前を記し、お礼に変えさせていただきます(敬称略、順不同)。

長谷部真, 柳田和美, 柳田弘子, 丹野弥生, 丹野栄一, 齋藤修, 梅津節雄, 池口和三, 池野進, 川崎康弘, 寺田紋子, 千葉博光, 森本章男, 有馬宏幸, 城戸美智子, 高野茂樹, 大岩憲治, 大畠文雄, 村中政文, 梶畑哲二, 山形達哉, 林克之, 米倉静, 横山大八, 辻義次, 田川亨, 大塚育恵, 瀬川強, 清水伸彦, 新山英憲, 関川實, 藤原正貴, 井上かよ子, 井上史子, 稲垣昌子, 安西恵子, 谷口秀樹, 有賀正英, 棚邊美根子, 葉山政治, 増田裕, 青山輝久, 齋藤仁志, 猿子正彦, 中原聡, 佐久間仁, 高田令子, 近藤忠男, 梅木賢俊, 谷上和年, 衛藤民子, 幸徳行, 江口初男, 谷岡仁, 西村公志, 牧野清助, 溝口文男, 前田和浩, 濱田哲暁, 森本元, 上野吉雄, 前田美紗, 鈴木創, 瀧本浩昭, 小山留美



## 結果速報

### 2017年度 コア・準コアサイト鳥類調査 越冬期結果報告

植田陸之(バードリサーチ)

#### 北の調査地では多くの鳥を記録

2017年度の越冬期は、21サイトで調査を行ない、合計で65種が記録されました。昨年は記録種数が少なく、61種でした。それと比べると多いものの、例年の70種前後と比べると、やや少ない種数でした。ただし、全国の合計種数はこのような傾向でしたが、各地点で見られた種数を比べると、例年と変わらないか、逆に北の地域では多いほどでした。バイオマス(表1)で見ても特に北の地域は今年は多く、鳥がやや多かった年と言えそうです。

今年の冬は、北海道や北日本の日本海側では雪が多く、また全国的にも寒さの厳しい年でした。それを考えると、北の地域の越冬条件はよくはなさそうです。また、特に木の実が豊作だったということもなく、木の実が多かったために北日本に鳥が集まっていたということでもなさそうです。なぜ、あまり良い条件とは思えないにもかかわらず、北日本で鳥が多かったのか、今後も情報を蓄積させつつ、明らかにしていきたいと思います。何か情報お持ちの方は、ぜひ植田までお教えてください。

植田連絡先:mj-ueta @bird-research.jp

表 1. 2009～2017年越冬期コア/準コアサイトのバイオマス。和歌山では1回しか調査を行っておらず、過小評価となっている

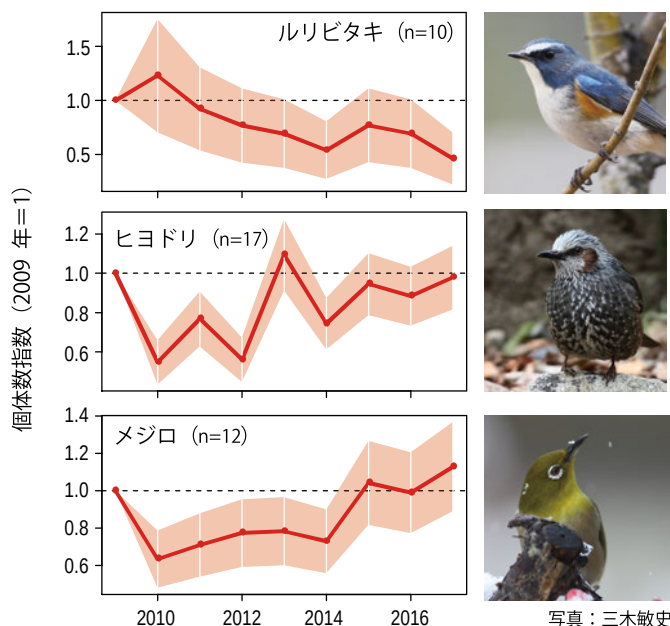
| サイト名    | 越冬期バイオマス (kg/10ha) |       |       |       |       |       |       |       |       |  |
|---------|--------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
|         | 2009               | 2010  | 2011  | 2012  | 2013  | 2014  | 2015  | 2016  | 2017  |  |
| 雨龍      | 2.83               | 6.66  | 0.63  | 1.02  | 5.42  | 2.38  | 0.27  | 1.17  | 2.47  |  |
| 野幌      |                    | 21.44 |       |       |       | 29.51 | 24.32 | 15.98 | 26.44 |  |
| 苫小牧     | 5.98               | 25.83 | 22.38 | 22.97 | 22.98 | 27.66 | 17.42 | 15.52 | 29.05 |  |
| 青葉山     |                    | 79.10 |       |       |       | 35.52 | 29.17 | 19.22 | 42.35 |  |
| 小佐渡     | 11.97              | 14.09 | 18.88 | 10.47 | 38.07 | 8.88  | 23.20 | 10.93 | 10.67 |  |
| 那須高原    | 5.14               | 2.31  | 12.70 | 3.58  | 4.78  | 2.65  | 7.02  | 3.84  | 3.95  |  |
| 小川      | 10.57              | 22.68 | 10.84 | 7.41  | 24.16 | 12.46 | 23.71 | 16.92 | 25.67 |  |
| 高原山     | 5.01               |       |       |       | 4.12  |       |       |       |       |  |
| 筑波山     | 11.12              |       |       |       | 28.19 |       |       |       |       |  |
| 大山沢     | 3.78               | 2.37  | 4.36  | 3.24  | 1.23  | 2.27  | 1.98  | 2.07  | 3.02  |  |
| 秩父      | 3.55               | 3.26  | 10.39 | 5.84  | 8.16  | 18.25 | 9.18  | 4.53  | 10.59 |  |
| 西丹沢     | 6.43               |       |       |       | 4.68  |       |       |       |       |  |
| 富士      |                    |       | 15.88 |       |       |       |       |       |       |  |
| 函南      |                    | 8.35  |       |       |       |       | 13.56 |       |       |  |
| 愛知赤津    | 9.02               | 10.85 | 12.53 | 7.24  | 8.24  | 9.06  | 10.43 | 3.87  | 9.06  |  |
| 上賀茂     | 23.79              | 15.61 | 33.13 | 23.41 | 24.68 | 30.16 | 22.83 | 21.06 | 18.06 |  |
| 春日山     |                    |       | 32.26 |       |       |       |       | 19.86 |       |  |
| 和歌山     | 7.52               | 1.05  | 6.05  | 1.84  | 8.63  | 3.04  | 5.27  | 84.46 | (1.3) |  |
| 半田山     |                    |       | 1.74  |       |       |       |       |       |       |  |
| 宮島      | 115.42             |       |       |       |       | 39.52 |       |       |       |  |
| 市ノ又     | 3.16               | 5.42  | 4.64  | 2.73  | 2.81  | 8.92  | 6.26  | 11.01 | 7.76  |  |
| 佐田山     |                    |       |       | 13.41 |       |       |       |       | 9.37  |  |
| 対馬龍良山   |                    |       |       | 6.31  |       |       |       |       | 9.48  |  |
| 粕屋      |                    |       | 15.43 |       |       |       |       | 6.21  |       |  |
| 椎葉      | 7.46               |       |       |       |       | 12.43 |       |       |       |  |
| 綾       |                    | 4.99  | 3.92  | 4.32  | 6.99  | 6.22  | 7.33  | 6.38  | 6.85  |  |
| 田野      | 12.63              | 13.55 | 5.61  | 9.71  | 8.37  | 15.83 | 8.05  | 9.36  | 24.34 |  |
| 屋久島照葉樹林 |                    | 22.51 |       |       |       |       |       | 20.26 |       |  |
| 屋久島スギ林  |                    |       |       | 2.73  |       |       |       |       | 3.63  |  |
| 奄美      | 30.62              | 35.48 | 10.21 | 14.27 | 14.31 | 23.35 | 23.80 | 21.43 | 27.22 |  |
| 与那      | 38.98              | 30.44 | 23.33 | 20.04 | 21.93 | 22.49 | 29.25 | 22.64 | 27.80 |  |
| 西表      | 18.13              |       |       |       |       |       | 21.84 |       |       |  |
| 小笠原石門   |                    |       | 3.35  |       |       |       |       | 6.53  | 6.53  |  |

#### 減少つづくルリビタキ

2017年でモニタリングサイト1000の第3期の調査が終了しました。そこで、これまでのデータを基にして、越冬期の鳥類の個体数変化をまとめてみました。コアサイトのデータに、調査頻度の高い準コアサイト(野幌、青葉山、奄美)を加え、TRIMという個体数変動解析のソフトウェアを使って解析を行ないました。

以前のニュースレターでルリビタキが減少傾向にあることお知らせしましたが、今回の解析でも、その傾向が続いていることが示されました(図1)。また、反対にヒヨドリとメジロは増加しているようでした。両種とも、2010年に大きく減少していたために、有意な増加とはなりませんでした。2010年以降をみると、年変動こそあるものの、増加傾向にありました(図1)。

ヒヨドリやメジロは南方系の鳥です。そのため、植田が調査を担当している秩父のコアサイトでは、ヒヨドリやメジロはこれまでほとんど記録されませんでした。しかし、2017年の冬には両種とも記録されるなど、近年、記録される年もでてきています。このように、越冬域を寒冷な場所へと広げるとともに個体数も増加しているのかもしれませんが、今後も気をつけつつモニタリングを進めたいと思います。



#### 調査へのご協力ありがとうございました

2017年の現地調査にあたっては、井戸田奈々、岩本富雄、植田陸之、上野あや、川崎慎二、久高将和、高美喜男、瀧本宏昭、竹田山原楽、谷脇智和、千葉舞、中村豊、西剛、濱田哲暁、平野敏明、柳田和美、梁瀬桐子(敬称略)ほか多くの方々のご協力をいただきました。皆様に感謝いたします。

## 事務局からのお知らせ

### モニタリングサイト1000データの活用事例

野口真磨子（日本野鳥の会）

今年で16年目を迎えたモニタリングサイト1000事業では、15年間で蓄積されたデータから少しずつ日本の自然環境の現状が明らかとなってきています。より多くの方にこの結果を知っていただくために、5年ごとにとりまとめ報告書を作成しています。この報告書を通して今、何が起きているのか状況を知っていただくと共に、集まったデータを是非、各地での保護・保全活動に活用して頂きたいと考えています。

では、実際どういったところでこのデータは活用できるのでしょうか。今回は、このモニタリングサイト1000事業の調査結果を用いた活用事例を紹介したいと思います。

#### 行政施策の基礎資料として活用

生物多様性地域戦略策定の際の基礎資料として、また、レッドリスト及びレッドデータブック作成や見直しの際に、地域ごとの貴重な資料として本事業で得られたデータが活用されています。経年変化を把握することが出来る本調査の結果は、レッドリストの対象種検討の際など、その種の扱いをどうするか考える上でも重要なデータとなっていると考えられます。

### 生息地保全のための資料として活用

個体数の経年変化をとらえ、生息地保全のための対策につながった事例があります。これまでニュースレターでもお伝えしていますが、近年、シカの個体数増加によって林床植生が減少し、鳥類への影響が懸念されています。モニタリングサイト1000の調査地である秩父の大山沢サイトもその一つです。当サイトでは、これまでの調査結果を元に、シカ柵設置の対策を行い、植生の回復を目指すと共に藪を利用する鳥類の復活を目指しています。このように、鳥類データと植生データから経年的な変化が把握できたことで、生息地の保全のための活動へと発展した事例となっています。今後、どのような効果が見られるか期待されます。また、鳥獣保護区や自然公園の指定見直しに活用された事例もあります。

このように、継続的な調査を続けることで基礎的なデータを蓄積でき、さらに変化を迅速に把握し、対策を打つことが可能となります。各年度の調査データは、生物多様性センターのホームページからダウンロードすることができます。今回ご紹介いたしましたように、既にご活用いただいているケースもあるかと思いますが、もし、「自分たちの地域はこんな保全対策に活用した」などがありましたら、それらの実績はモニタリングサイト1000を継続的に実施するための重要な情報でもあるため、事務局（日本野鳥の会自然保護室）まで是非、お知らせください。

表1. モニタリングサイト1000 データ活用事例

| モニ1000全体の活用事例                                 | 森林草原サイト              |
|-----------------------------------------------|----------------------|
| ●自治体の生物多様性地域戦略や環境基本計画（基礎資料、進捗把握、見直し時の検討資料etc） | ●生物多様性地域戦略への活用       |
| ●希少種保全                                        | ●鳥獣保護区の見直し、検討        |
| ●外来種対策                                        | ●都道府県レッドデータブック（都道府県） |
| ●鳥獣保護区の見直し・検討                                 | ●オオタカの種の保存法指定種からの解除  |
| ●重要地域選定の検討                                    | ●鹿柵の設置及びシカ影響の研究      |
|                                               | ●渡り鳥等保護条約会議への情報提供等   |

### オオタカの繁殖情報収集にご協力ください

植田睦之（バードリサーチ）

2017年9月21日。オオタカが種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」から解除されました。この解除はオオタカが絶滅に瀕した状態ではなくなったということで、喜ぶべきことなのですが、解除で保護が緩むことでの減少が心配です。

そのため、環境省は解除後のオオタカの個体数の変化や保護状況の変化をモニタリングする調査をたちあげました。調査は5年を目処に考えているということですが、影響はこのような短期間で出るとは限りません。環境省事業が終わっても長期的なモニタリングができるような体制を今から考えておく必要があります。

そこで、この調査が終了した後も継続できるようなモニタリング体制として、皆さんが観察されているオオタカの状況を

収集し、状況を把握するアンケートサイトをたちあげました。この調査は日本オオタカネットワークなどのNGOとも連携して実施し、環境省事業が終わっても続けていけるようにします。

もし皆さんが観察されているオオタカの営巣地があれば、それを可能な範囲で継続して観察していただき、その情報をお教えいただけないでしょうか。登録項目は、営巣地名、場所、営巣地の環境、繁殖の成否、失敗の原因等です。

来年度以降も登録いただいた営巣地についてご連絡させていただき、その年の繁殖状況についてご報告いただけたら、と思っています。ご協力よろしく願いいたします



オオタカ（藤井 薫）

アンケートサイト <http://www.bird-research.jp/1/otaka/>

## 事務局からのお知らせ

### イソヒヨドリの内陸侵出・キビタキ優占種化 ～全国鳥類繁殖分布調査から～

植田陸之(バードリサーチ)・葉山政治(日本野鳥の会)

全国鳥類繁殖分布調査は1970年代と1990年代に環境省により行われた調査です。昨年からバードリサーチ、日本野鳥の会などの5団体のNGOや大学等研究機関、環境省などの官民学の合同調査として、全国のたくさんの方々の参加のもと、2020年までに全国の鳥の今を明らかにしようとしています。調査に参加いただいている皆さまありがとうございます。調査は3年目に入り順調に進んでいます。ここでは、今年までの調査で見えてきた結果をいくつかお知らせします。

#### イソヒヨドリの内陸部侵出

分布調査のサイドイベントとして、ゴールデンウィークにイソヒヨドリ・ガビチョウ・ホンセイインコの情報収集を実施しました。その結果に分布調査の結果、モニ1000データ、そしてバードリサーチの野鳥観察データベース「フィールドノート(さえざりナビ)」の情報を加えると、イソヒヨドリの内陸侵出の様子が見えてきました。



イソヒヨドリ(豊田敏則)

イソヒヨドリは1990年代は全国の海岸沿いに生息する鳥でした。それが今回の結果ではかなり内陸でも普通に見られるようになってきました。特に近畿から関東にかけて侵出が顕著でした(図1)。海岸からの距離をもとに集計すると、もちろん海岸近く(海岸から0-2km)の記録も多いのですが、なんと10km以上内陸の記録が最も多かったのです(図1)。「内陸の記録を積極的に送ってくれているから」という偏りは当然あるのですが、全国的に内陸への進出が進んでいる様子がうかがえます。

北海道については海岸からの記録のみでした。もし内陸での観察があればお知らせください。

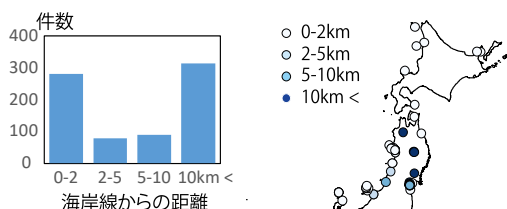


図1 イソヒヨドリの観察地点の海岸線からの距離

### 優占種化のすすむキビタキ

モニタリングサイト1000の調査結果でも、優占種のウグイスの減少が明らかになっています。また、過疎化の進んだ地域ではスズメがみられなくなったりしています。こうした優占種の変化が各地で起きているのではと考え、全国データを集計してみました。

まず、1990年代と今回で調査コースの変更の軽微な場所を対象に各調査地の個体数の上位3種を抽出しました。そして、種別に何地点が上位に入っていたかを集計してみました。

その結果、期待とは違い、優占種の上位種は、1990年代、今回ともに変わらず、ヒヨドリ、ウグイス、スズメ、ホオジロで、順位変化もありませんでした。ただ、その次にランクされたキビタキは前回から大きく上昇していて、上位に入った地点数は前回の74地点から148地点に増加していました。

表1 優占種の1990年代と今回の比較

| 2016-<br>種名 | 各順位の地点数 |     |     |   | 1997-2002<br>種名 | 各順位の地点数 |     |     |
|-------------|---------|-----|-----|---|-----------------|---------|-----|-----|
|             | 1       | 2   | 3   |   |                 | 1       | 2   | 3   |
| ヒヨドリ        | 351     | 149 | 82  | ← | ヒヨドリ            | 274     | 153 | 96  |
| ウグイス        | 143     | 168 | 111 | ← | ウグイス            | 140     | 149 | 103 |
| スズメ         | 140     | 84  | 44  | ← | スズメ             | 160     | 83  | 48  |
| ホオジロ        | 35      | 68  | 74  | ← | ホオジロ            | 51      | 71  | 115 |
| キビタキ        | 25      | 53  | 70  | ↑ | ツバメ             | 46      | 64  | 58  |
| ツバメ         | 22      | 47  | 41  | ↓ | シジュウカラ          | 31      | 38  | 53  |
| シジュウカラ      | 13      | 36  | 56  | ↓ | カワラヒワ           | 26      | 38  | 46  |
| カワラヒワ       | 18      | 28  | 56  | ↓ | メジロ             | 25      | 39  | 44  |
| キジバト        | 11      | 38  | 48  | ↑ | ムクドリ            | 26      | 38  | 22  |
| メジロ         | 20      | 40  | 35  | ↓ | エナガ             | 24      | 23  | 33  |

キビタキの増加はモニタリングサイト1000の結果からも示されていましたが、それが面的に起きていることが今回再確認できました。全国的に50%以上の増加、あるいは100%以上の増加がみられており、大きく減少した場所は北海道で目立つ以外はごく僅かでした(図2)。



図2 キビタキの大きな増減が見られた調査地の分布。  
●: 100%以上の増加,  
●: 50%以上の増加,  
●: 50%以上の減少,  
●: 75%以上の減少

### 調査参加のお願い

調査は順調に進んでいますが、まだ調査担当者が決まっていないコースも地域によっては(群馬、福岡、岩手、福島など)まだまだあります。まだ参加登録されていない方はぜひ調査への参加をご検討ください。

<https://db3.bird-research.jp/~birdatlas/volunteer.html>

### 全国鳥類繁殖分布調査

主催団体: バードリサーチ、日本野鳥の会、日本自然保護協会、日本鳥類標識協会、山階鳥類研究所、環境省 生物多様性センター



## 事務局からのお知らせ

### モニタリングサイト1000 研修・交流会のご案内

野口真磨子(日本野鳥の会)・植田睦之(バードリサーチ)

モニタリングサイト1000の事業は、皆様のご協力により今年度から第四期(16年目)がスタートしました。この大規模かつ長期的な調査を今後も継続していくためには、調査員の皆様の継続的な御協力が欠かせません。また、近年次世代の調査員の確保・育成が課題となっています。

陸生鳥類調査では昨年度に引き続き、各地域でさまざまな調査活動をされている方の成果発表や情報交換を通して、参加者同士の交流を深めることを目的とした研修会を実施します。今年は、鹿児島県、京都府、東京都の3か所で開催することとなりました。新たに調査員を目指す方や現役の調査員の方々との交流、またエリアを超えた調査員の方同士の交流が深まるような内容としたいと思います。詳細はホームページ等で追ってお知らせ致しますので、ご確認ください！



#### 参加申し込み先

専用サイト「日本野鳥の会 モニタリングサイト1000」で検索もしくはQRコードから

Fax: 03-5436-2635

(日本野鳥の会モニタリング係)

件名は「研修会申込み」とし、お名前、電話番号、メールアドレス(あるいはFAX番号か住所)、参加会場、参加日程、事例発表の有無(タイトル)、懇親会参加の有無をお知らせください。

### モニタリングサイト1000 調査研修会

【主催】 日本野鳥の会・バードリサーチ

#### 【開催場所】

<鹿児島県> 2018年10月20日(土)～21日(日)  
鹿児島県社会福祉センター(鹿児島市)&慈眼寺公園周辺

<京都府> 2018年11月3日(土)～4日(日)  
コープイン京都(中京区)&宝ヶ池公園周辺

<東京都> 2018年12月1日(土)～2日(日)  
日本野鳥の会事務所&国立科博附属自然教育園

※ 開催日時や場所等の詳細については、専用サイトにて情報配信いたします。以下のページをご覧ください。

<http://www.wbsj.org/mng/?p=987>

#### 【内容】

初日 午後スタート

モニタリングサイト1000の事業概要と成果を紹介いたします。また、参加者による事例発表や情報交換の時間を設けます(東京会場のみ内容が異なります)。

※ 話題を提供いただける方を募集します。東京会場では、全国鳥類繁殖分布調査の報告と分布図を作成する際に重要なアンケート情報の提出方法について説明し、参加者の皆さんに実践していただく予定です。

講義終了後:懇親会

2日目 午前中のみ

実際に野外に出て、鳥類のスポットセンサス法と簡易植生調査の実践していただきます

#### 【参加対象】

調査に興味のある方(経験不問)

(定員は会場の都合で30～40人程度まで。定員を超えた場合は参加できないことがあります)

#### 【参加費】

無料(ただし入園料や懇親会は実費を徴収)。

#### お問い合わせ先

日本野鳥の会 モニタリングサイト1000担当

〒141-0031 品川区西五反田3-9-23丸和ビル

Tel: 03-5436-2633 Fax: 03-5436-2635

Mail: [moni@wbsj.org](mailto:moni@wbsj.org)